

子供と一緒に浜づくり
～女性部のやる気が地域の元気！～

都農町漁業協同組合女性部
吉川 辰子

1. 地域の概要

私達が住んでいる都農町は、県庁所在地である宮崎市と県北の拠点となっている延岡市のほぼ中間に位置している。(図1) 東に日向灘、西に尾鈴の山並みが連なる、農業と漁業を主産業とする人口約1万1千人の『山と滝とくだものとワインの町』を看板に掲げる自然豊かな町である。

尾鈴連山には『日本の滝100選』に選ばれた矢研の滝があり、また、くだものでは特に、宮崎県内一の生産を誇るぶどうが有名で、地元で栽培されたぶどうだけを使った“都農ワイン”は、『世界のワイン百選』に選ばれ、さらには、カテゴリー賞などにも輝いたことから、全国的にもワインの町として知られるようになってきた。



図1 地域の概要

2. 漁業の概要

所属する都農町漁協は、正組合員67名、准組合員54名の計121名で構成されている。主な漁業種類は、フグ、ハモなどの延縄漁業、チダイ、アジなどの一本釣り漁業で、平成19年度の水揚げ高は2億8,000万円である。

3. 研究グループの組織と運営

女性部は、昭和32年5月に設立され、現在部員は113名で、年1回の総会と4・5回の幹部会を定例の場としている。

活動としては、宮崎県女性連が提唱する「女性部5つの運動」を柱に活動を展開しており、主に子供たちを対象にした魚食普及活動や、毎月実施している海浜清掃などの環境美化活動は特に力を入れて取り組んでいる。

4. 研究・実践活動課題選定の動機

年々、漁業を取り巻く環境は厳しく、追い打ちをかけるように高齢化が進み、漁村に限らず地域全体に活気が無くなってきているように感じる。(図2、3、4) 時代とともに人々の考え方、価値観、生活様式は変遷してきたが、子供たちと過ごす貴重な時間や他の地域・団体と交流することは女性部にとって良い刺激となり、女性部活動の意欲向上にもつながっている。

地域が元気になるために、漁村の発展につなげていくために、女性部活動を通じ、明日を担う子供たちへ自信を持って託せる浜づくりを目標に掲げ、日々知恵を出し合いながら夢を

持って活動している。

5. 研究・実践活動の状況及び成果（効果）

（1）環境美化活動

発足当初から現在も続けてきている海浜清掃は、毎月第3日曜日に女性部員総出で漁協・漁港周辺を中心に各班に分かれて実施している。（写真1）昔と違って今は、仕事をしている部員も多いが、都合をつけて積極的に参加しており、毎回100名前後の部員・地域住民が協力し、約1時間の作業に汗を流している。この清掃には、地元の男性も自ら手伝ってくれており、草刈り機や、力のいる作業のときなど大変助かっている。

昨年11月には、JF全国女性連主催の「海を守る青少年体験教育活動」の取り組みとして、私達都農町女性部が中心となり、近隣の小学生を対象に「海浜清掃」と「海藻おしば教室」を開催した。（写真2）

学校行事の代休と重なり平日の開催となったが、子どもたち約50名の参加のもと、一緒に海浜清掃を実施し、海藻のおしば作りを楽しんだ。子供たちにとっては、普段食べている海藻の色がなぜ違っているのか、海底にある「海の森」がなぜなくなりつつあるのか、どうしたら海を汚さずにすむか、海を綺麗に保つには日頃何を気をつけたら良いのかなど、「地球環境」の大切さについて色々と学べる良い機会となり大好評であった。

実施作業もスムーズに進み、アイデアに富んだ個性的な作品が多数並んだ。（写真3）「この海藻知ってる!」、「これヒジキ?」など、思いのまま話していた子供たちだが、いざ始めると、話をするのも忘れ、没頭していた。おしばを作っている時の子供たちの真剣な眼差しや、普段やんちゃな男の子たちが一生懸命作っている姿を見ることは新鮮な気持ちであった。（写真4、5）

作業が終わったあとは、女性部の手作り料理でランチタイムとなった。この日のメニューは、おにぎり、魚のつみれ汁、サゴシの南蛮で、作業を終えた子供たちは口いっぱい頬張り満足そうに食べていた。

（2）魚食普及活動

私達は、魚食普及活動にも力を入れており、地元で獲れる魚をもっと多くの方に食べてもらいたいという思いから魚料理教室を始めた。当初、JAとタイアップして農家のお嫁さんたちで作る「若妻会」を対象に開催した。材料はそれぞれ持ち寄り、農産物と水産物を使った料理は評判も良かったが、近年、食生活の変化もあってか、若年層の魚離れ・魚嫌いが深刻化している等の声をよく見聞きすることが多くなった。このため、新しい料理方法でもっと魚を食べてもらおうと、地域の主婦や男性にも声をかけ開催した。参加者の中には、初めて作る料理もあり、講師のアドバイスを受けながら味見を繰り返し調理していた。出来上がった料理を全員で試食し、「上手く出来た」「家庭でも簡単に出来そう」「また食べたい」という声をたくさん聞き、嬉しい気持ちでいっぱいであった。

最近では、幼児・児童を対象にシイラ・カツオを子供たちの目の前で捌き、子供たちと一緒に調理し、全員で試食している。スーパーで切り身となって売られているシイラを見たことはあっても、まるまる一匹を見る機会は少なく、ゴツゴツした顔の魚に驚いた表情の子供たちだったが、魚が次第に切り身になっていく工程をみていくうちに見慣れた姿となり、納得した表情に変わっていた。

また、カツオがどのようにして近海までたどり着くのかなど、魚の回遊を説明することに

より、単に食べるだけではなく、学ぶ場としても役立っている。このような勉強の後、実際に魚に触れるわけだが、子供たちは嫌がることもなく、作り始めると夢中になり、楽しそうに調理していた。(写真6) 試食ともなるとあっという間に平らげ、おかわりをたくさんする子どもおり、新鮮な魚の味を思う存分堪能したようだ。

色々な料理の中で、子供たちからのリクエストが最も多く、一番の人気メニューは、「カツオのピザ」で、私達も子供たちの期待に応えられるよう、腕に縋りをかけて頑張っており、更には、次の人気メニューを作りだすために各自研究し、努力している。

6. 波及効果

私達女性部の子供向けの料理教室の話が少しずつ広がり、去年は、近くの幼稚園から依頼を受け、約 100 名の親子を対象にした出張料理教室を開催した。少しでも魚に触れる機会、食す機会、料理方法を子供はもちろん、その保護者にも伝えることができると考え、喜んで引き受けた。

参加した保護者からは「子供がこんなに上手に包丁が使えるとは思わなかった」、「あんなに生き生きと料理するなんて…」、「魚も簡単に料理できるんだ」など、新たな発見もあったようで、嬉しそうに話してくれた。

このように参加者の声を直接聞くことで、私達女性部が今以上にやる気を起こし、女性部活動の活性化につなげ、今後の恒例行事となるよう工夫して食育活動の場を広げていきたいと考える。

その他、福祉施設に入居する方たちを招いて、手料理を振る舞ったり、各団体で協力して取り組んでいる「じいちゃん、ばあちゃんパトロール隊」に参加し、地域の子供たちの登下校を見守るなどボランティア活動も積極的に続けている。

また、一之宮都農神社の夏祭りは、御神行の浜下りがあり、漁協の水揚げ場で神事が行われている。水揚げ場や、漁協の会議室をお昼休憩所としても提供しており、神社の依頼を受けて女性部で炊き出しをしている。朝が早くて、作る量も多く、大変な作業だが、地域のために少しでも役立てればと毎年協力してきている。

更に、漁村独特の盆踊りを女性部で指導することとなり、時間を見つけては大人も子供も練習に励んだ。盆踊り当日は、古くなった大漁旗を各自持ち寄り、手作りした法被を着用しての趣向を凝らした賑やかなお盆となった。(写真7)

7. 今後の課題や計画と問題点

私達の町には5つの女性部団体が存在する。JA、商工会、地域、更生保護、そして私達JFである。この5女性部団体と漁協、行政等と積極的に交流することで、情報交換も進み、新たな活動にも取り組むことができ、町全体の活性化につながっていくものと確信している。

現在、漁協に直売所開設の計画が上がっている。地産地消を目的に食育活動を進め、都農町の農水産物をより多くの方に広めるためにも、積極的に参画していくことで、活動の更なる強化を図りたい。

環境美化、魚食普及活動等を通じ、子供たちへ山や海の手を守る大切さを教えることができたと考える。まだまだやるべき事、やりたい事はたくさんあるが、子供たちの輝いた笑顔と元気、そして女性部のやる気が地域の元気につながるよう、女性部員みんなで地域を盛り上げていきたい。

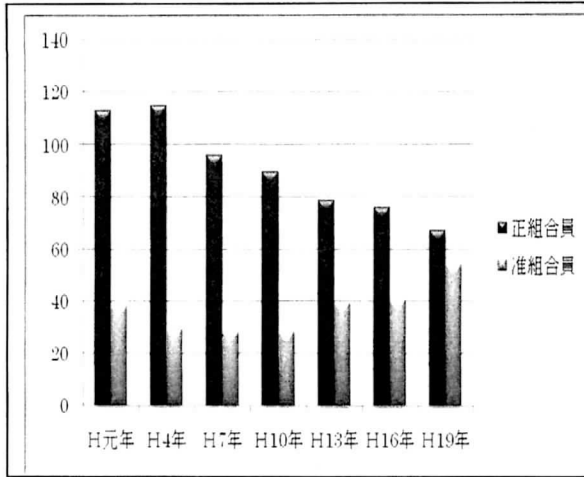


図2 組合員数の推移

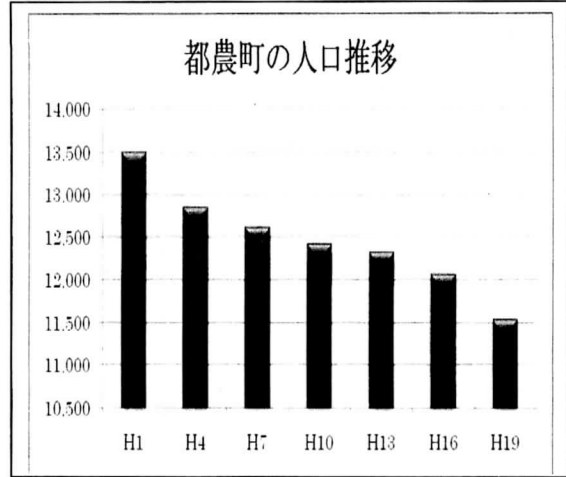


図3 都農町の人口推移

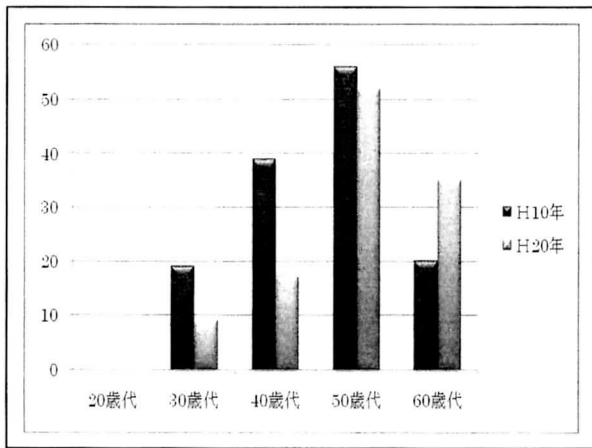


図4 年代別女性部員数の推移

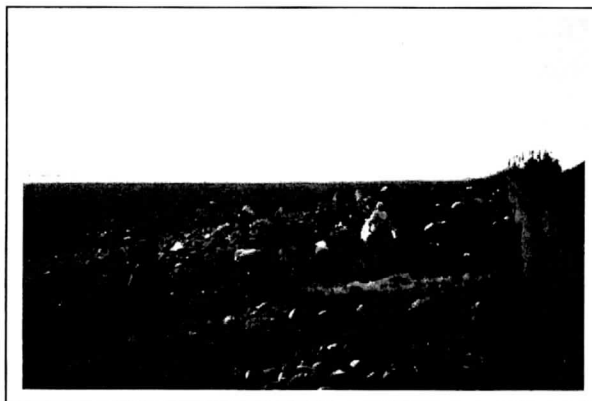


写真1 海浜清掃の様子



写真2 「海を守る青少年体験教育活動」

